

地域の絆と人のパワーを生かし 交流創造都市を目指す

はじめに

人の横顔をしている山形県の「耳」に位置する村山市。県の内陸部村山盆地の中央にあり、四季の変化に富む田園都市です。市の真ん中を県の母なる川「最上川」が縦断し、その両側に肥沃な田畑が広がり、山形県の米の新品種「つや姫」をはじめとする食味のよい米どころで、さくらんぼなどの人気果物も幅広く生産しています。

また、江戸後期の北方探検家「最上徳内」の出身地でもあります。長崎出島のオランダ商館医であったシーボルトは、後に著した日本研究書『NIPPON』において徳内の肖像画を掲げ、「18世紀で最も卓越せる日本の探検家」と紹介しました。このようなことから、郷土の偉人「最上徳内」をまちづくりの核

と位置付け、徳内にかかわるまちおこしを幅広く手掛けています。その一つが、毎年8月末に行われる「むらやま徳内まつり」です。
電気を地産地消するまち・環境都市むらやま

これまで、環境負荷の削減を目指す「エコアクション21」の認証を全国の自治体で3番目に取得するなど、環境分野におけるさまざまな取り組みを行ってきましたが、日本で初めて、世界でも4例目の「ガス化炉ガスエンジン」による木質バイオマス発電所が、平成19年市内に完成したことを機に「環境都市むらやま」を目指し、さらに進んだ取り組みを行っています。

平成21年11月、山形県内の市町村で初めて電気自動車を導入、本年2月には市庁舎など主な公共施設

設の電力を、「木質バイオマス発電所」からの供給に切り替えました。間伐材や果樹の剪定枝などの「木」を燃料に使った二酸化炭素排出量ゼロのグリーン電力への切り替えは、全国の市町村で初めてのことで、まさに「電気の地産地消」を行っています。これにより年間基本料金が2%、二酸化炭素排出量1280tが削減されます。

新図書館オープンと「読書シティむらやま宣言」

本年5月末、中心市街地に総合文化複合施設「読書プラザ」をオープンしました。この施設は蔵書7万5000冊を有する市立図書館をメインとし、子育て支援センター、多目的ホール、交流広場などからなり、市民の「学習と交流によるにぎわいづく



全国初のそば街道「最上川三難所そば街道」

「交流の創造力」を生かしたまちづくり

市総合計画では市の将来像に「地域と人が輝く交流創造都市」を掲げ、「交流は地域活性化の第一歩」を合言葉に、市内の地域内交流、市外との都市間交流などを市民主体で行

いながら、交流の持つ創造力を市の活性化につなげようとしています。

先に紹介した最上徳内が北方探検の際に拠点とした地である北海道厚岸町とは、平成3年に友好都市の盟約を結びました。今では、市民主導のさまざまな交流に発展しています。

また、東京都台東区浅草寺の宝蔵門に、本市市民の奉賛会が昭和16年からほぼ10年ごとに「大わらじ」を奉納してきた関係で、東京都台東区とは平成20年に友好都市の盟約を提携しました。これも市民の力が礎となった交流の絆です。

本市は、全国で初めて「そば街道」を設定しましたが、隣県宮城県



躍動感にあふれる「むらやま徳内まつり」

交流を進めています。また、東京都豊島区とは戦時中に学童疎開を受け入れたこと、東京村山会の本部があることなどから結びつきが強まっています。厚岸町をはじめ、塩竈市、台東区、豊島区とも「災害時相互応援協定」を締結する関係にまで発展しています。また、シーボルトと最上徳内の親交関係から、たぬき絵作家の「堤けんじ」との交流につながり、長崎県西海市との交流に広がっています。

地域重視と協働と

市内8つの地域ごとに地域協議会を設立し、地域主体のまちづくりを進めています。平成15年には全地域で「まちづくり協議会」を設

置するとともに、従来の縦割り組織をなくし、地域を横につなげプラットホーム化しました。そして平成20年度から2カ年をかけて、全地域において地域自体で「地域計画」を策定しました。各地域において歴史や伝統文化など自らの地域の良さを再認識し、市全体のみならず、それぞれの地域でも将来像

を明確に描きながら新たな地域づくりを行っています。地域を重視し、住民主体で地域が運営できるよう、行政としては住民との協働を意識しながら物事を進め、市民が生き生きと生活し、村山市に住むことを誇りに思えるまちにするために、これからも努力し続けます。

プロフィール

- ◆ 面積 196.83 km²
- ◆ 人口 2万7506人
- ◆ 世帯数 8192世帯

〔将来都市像〕さわやかな四季の風吹くまち・地域と人が輝く交流創造都市
〔まちの特徴〕東に飯岳、西に葉山を頂き、市の中央を山形県の母なる川が流れ、水田や果樹畑が広がる自然環境に恵まれた田園都市。人の横顔を山形県の「耳」の位置に情報が集まる都市。

〔特産品〕村山おいしい産品「さ・し・す・せ・そ」。さくらんぼ、じゅんさい、すいか、清酒(十四代・六歌仙)。



村山市長 佐藤 清



そば(そば街道)
〔観光〕「そば・バラ・徳内」が三大観光キーワード。そばは「最上川三難所そば街道」(全国初のそば街道)、バラは東北随一の「東沢バラ公園」(かおり風景100選)、徳内は「最上徳内記念館」「むらやま徳内まつり」。ほかに日本一社林崎居合神社(居合道の始祖を祭る)、真下慶治記念美術館、クアハウス基点(日本初の宿泊型クアハウス)、最上川三難所舟下り「イベント」バラまつり、むらやま徳内まつり、そば花まつり、秋のバラまつり、長板そば三十三間堂、段々ロングな蕎麦まつり

※面積は国土院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

地域力を結集した協働のまちづくり

地域の宝物

「自然・環境(海、山、川など)」「文化(文化財・歴史・仏閣・伝統・祭りなど)」「食・食材・伝統食・食文化」。これらは、「100年後に何を残し、何を失ってはならないか」という問いに対する、多くの市民の回答です。「自然」や「食」に代表される地域資源、「文化」に代表される先人が培ってきた歴史・文化遺産をかけがえのないものと市民は感じており、私も、この地域の宝物を残し生かしていくことが大事であると考えています。

小浜市は、福井県の南西部、リアス式海岸を有する若狭湾のほぼ中央に位置する、自然環境の豊かなまちです。古来から大陸の玄関口として栄え、仏教文化の伝来ルートであったことから、市内には国宝

をはじめとする神社仏閣が数多くあり、「海のある奈良」とも呼ばれています。また、豊富な海産物や塩などを朝廷に献上した「御食国」の歴史を有する地域でもあります。本市ではこれまで、この地域の誇れる歴史と豊かな食を政策の中心に掲げた「食のまちづくり」を展開してきました。特に「食育」については、子どもから大人まであらゆる世代を対象とした「生涯食育」という概念を提唱し、全国のトップランナーとして注目を浴びています。また、最近では、本市が舞台となったNHK連続テレビ小説「ちりとてちん」の放映効果や、アメリカ大統領選挙で盛り上がった市民団体の活動などにより、知名度が飛躍的に向上し、観光交流人口は、低迷していたころに比べて大幅に増えています。しかし、食のまち

づくり施策に対する外部評価では、地域全体の経済効果や雇用拡大、農林水産業など総合的な産業振興、健康長寿などの面では十分な成果がまだ得られていないという指摘をされており、次へのステップアップが必要となっています。

小浜らしい まちづくりに向けて

このような中、平成20年8月に私は「小浜の改新」をスローガンに掲げ市長に就任しました。そして、特に次の3点をまちづくりの課題であるところと取り組んでいます。

第1は、将来にわたり持続できる地域経済の活性化が最優先課題であることから、「観光による地域活性化」を掲げました。現在、本市は観光振興を図る上で大きな転機を迎えようとしています。平成23



毎年3月2日に奈良の「お水取り」に先駆けて行われる歴史的な行事「お水送り」

年1月から、本市とゆかりが深い浅井三姉妹の次女「お初(常高院)」が登場するNHK大河ドラマ「江」姫たちの戦国」の放映が始まります。また、平成23年夏には悲願の舞鶴若狭自動車道小浜インターチェンジの供用開始が予定されており、多くの方が本市を訪れることが予想されます。この転機を好機ととらえ、行政と民間それぞれの利点を生かした取り組みにより、観光を軸としたまちづくりを实践するため、新たな組織として「おばま観光局」を創設しました。観光局が「観光」と「まちづくり」を融合し、



806年に坂上田村麻呂が創建した古刹「明通寺」(本堂と三重塔が国宝指定)

年の文化の面影を残しています。これら数多くの貴重な文化遺産を、歴史的背景を踏まえて検証し、その価値を理解し認識を深め、後世に伝えるために保護・保存するとともに、観光施策と関連した積極的な活用を図り、小浜らしいまちづくりを進めています。

「夢、無限大」感動おばま

平成23年は、本市が昭和26年の市制施行から60年目に当たる節目の年です。また、将来にわたって本市を持続的に発展させていくための指針である「第5次総合計画」のスタートの年でもあります。私は、この第5次総合計画において、目指す将来像を、「夢、無限大」感動おばま——自然と文化が織りなす 地域力結集プラン——としました。市民一人一人が夢に向かってチャレンジし、自ら「感じ」「動く」ことで躍動しているまちを表現し、訪れる方々の心にも響き、感動をもたらすまちであるとの思いも込めています。

国が地域主権改革を進めるように、地域の住民が自ら暮らす地域の在り方について自ら考え、主体的に行動し、その行動と選択に責任



旧丹後街道沿いに城下町の風情を残す、海と山に包まれた小浜西組の町並み

1次+2次+3次産業の6次化による資源の有効活用などを図ることで、市内の産業および経済への新たな波及効果を生み出せないかと期待しています。

第2は、「市民の健康づくり」です。夢と生きがいを持って暮らすには、心身共に健康で長生きすることが大切です。市民一人一人が自らの健康に関心を持って健康づくりに努めるとともに、市民の自主的な健康づくりを支援し、健診事業や保健事業、医療体制の充実に取り組んでいます。

第3は、「文化遺産の保存活用」です。本市には重要伝統的建造物群保存地区に選定された「小浜西組」の町並みが残っています。また、市内各地には数々の寺社と文化財が点在し、華やかに栄えた往

プロフィール

- ◆ 面積 232.87km²
- ◆ 人口 3万2006人
- ◆ 世帯数 1万2012世帯

〔将来都市像〕「夢、無限大」感動おばま

〔まちの特徴〕豊かな自然に恵まれ、歴史、文化、伝統が息づく観光のまち
〔特産品〕(伝統工芸品) 若狭塗、若狭塗箸、若狭めし、若狭和紙(食品) 若狭かき、若狭ふぐ、浜焼き鱈



小浜市長
松崎晃治



〔観光〕国宝巡り、蘇洞門巡り、御食国若狭おばま食文化館、小浜西組地区(重要伝統的建造物群保存地区)
〔イベント〕奈良の二月堂へお香水を送るお水送り、お城祭り、祇園祭り、放生祭、若狭マリニピア、OBAMA食のまつり

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

「協働で魅力を発揮するまち 町田」を目標して

町田市は

町田市は、東京都の多摩地域南部、都心から30〜40kmの位置にあり、神奈川県に半島状に突き出しています。

また、中世から鎌倉と武蔵国府をつないだ「鎌倉街道」、大山への参詣道「大山街道」、幕末から昭和まで生糸産地と横浜港を結んだ「絹の道」が交わるなど、本市には、物流、交通の要所を担ってきた歴史があります。

市制施行当時6万人ほどであった人口は、首都圏の中核都市として現在42万人を超え、さらに発展を続けています。

小田急線とJR横浜線が交差する町田駅を核とする中心市街地は、百貨店やファッションビルが軒を連ねる商業集積地となっております。

年間商品販売額(平成19年度商業統計)では、東京都の商業集積地区(956地区)の中で、新宿駅東口、日本橋地域などに続き、第7位となっています。

全国へ町田の魅力を発信

本市は、スポーツが盛んなまちです。サッカーでは、市民栄誉彰の北澤豪さんや戸田和幸さんをはじめとする多くのJリーグ選手を輩出しており、JFLに所属するFC町田ゼルビアは、J2昇格を目指して活躍しています。日本フットサルリーグに所属するASVペスカドーラ町田は、スピーディな試合展開で魅力を発信しています。

野球では、日大三高や桜美林高校が有力校のひしめく西東京地区の代表として、甲子園で全国制覇

を果たすなど目覚ましい活躍を見せています。

本市北部の丘陵地は、緑豊かな自然が息づく首都圏の貴重な資産であり、地元で熱心に活動しているNPOと協働して、自分の足で歩きながらありのままの風景を楽しむ新しい観光「フットパス」を進めてきました。平成21年2月には、同様の活動を行っている北海道黒松内町、山形県長井市、山梨県甲州市などと連携して日本フットパス協会を設立し、全国的な展開を図っています。

さらに、本市を訪れる方を増やし、おもてなしをするため、同年4月に商工会議所と協働して「町田市観光コンベンション協会」を立ち上げ、旧白洲邸・武相荘、薬師池公園や町田タリア園などの観光資源、さらにはフェスタ町田をはじめ



JR 横浜線と小田急線を結ぶペデストリアンデッキ(高架歩道)

安心して暮らせるまちをつくるために

子育てでは、保育所入所待機児童の解消を図るため、平成21年度から全国初の取り組みとして、20年間期間限定認可保育所の新設を行っています。この取り組みは、TBSテレビの情報番組「みのもんたの朝ズバツ！」でも紹介され、問い合わせやほかの自治体からの視察が相次ぎました。

と締結しています。

現在の社会情勢は一刻と変化しており、将来を予測することが困難な時代になってきました。こうした時代だからこそ、市民の暮らしに一番近い自治体が、市民、大学や企業など地元の皆さんと手を携えて取り組みを積み重ね、これまで以上に「市民協働」で魅力を発揮するまちにしたいと考えています。

また、本市では、民生委員が毎年一度70歳以上の一人暮らしの方全員と75歳以上の高齢者がいる全世帯を訪問して、「高齢者のための福祉のてびき」を配布し、近況をお伺いするなど、日ごろから行き来をする人のつながりがあります。この夏、全国的に100歳以上の高齢者安否確認調査が始まったときにも、1人として100歳以上の所在不明の高齢者を出さず済み、改めて地域における市民協働の大切さを感じました。

協働のシンボルとしての新庁舎建設

現在の庁舎は昭和45年に開庁しましたが、耐震基準を下回る上、狭いため10を超える民間ビルなどに分散して業務増に対応していません。これらの問題を解決するため、平成24年9月の開庁に向けて新庁舎の建設を進めています。

検討に際しては、建設候補地を検討した庁舎問題検討委員会、新庁舎基本設計市民ワークショップなどをはじめ、計画手順の段階ごとに多くの市民の皆さんのご協力をいただき、提案のあった市民協働空間、ワンストッププロビーや環境対策などを設計に反映しています。施工業者の選定については、総



平成24年開庁を目指して建設中の新庁舎

プロフィール

- ◆ 面積 71・64km²
- ◆ 人口 42万4660人
- ◆ 世帯数 18万3636世帯

〔将来都市像〕人と地域が主体のまち
／人が集まり、豊かにすこせる魅力あるまち／活躍する人が育つまち

〔まちの特徴〕都内有数の商業集積、大型団地、丘陵地域の自然

〔特産品〕小山田みつば、東京牛乳(原乳生産)、露地野菜、果樹類、花き類

〔観光〕旧白洲邸・武相荘、小島資料



町田市長 石阪丈一



館、薬師池公園、国際版画美術館
〔イベント〕町田さくらまつり、フェスタ町田、産業祭、太陽と緑のまつり(農業祭)、大賀ハス観蓮会

※面積は国土地理院「全国都府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

人と地域と自然が調和した 交流都市を目指して

はじめに

恵那市は名古屋市の中心部からおよそ60km、岐阜県の南東部に位置し、愛知県と長野県に隣接した、山紫水明の豊かな自然に恵まれた地域です。平成16年10月に、旧恵那市と恵那郡の5つの町村が新設合併し、新恵那市が誕生して本年で6年を数えます。市内には美濃岩村藩の城下町や、中山道大井宿の町並みといった貴重な歴史や文化、さらには日本初の発電用ダムとして造られた大井ダムのある県立自然公園恵那峡をはじめ、大正ロマンの雰囲気浸れる日本大正村など、数々の観光資源に恵まれた地域で、年間の観光客数は約365万人を数えます。

また、昭和32年に製作された映画「青い山脈」は、当地でロケ

ションが行われ、多くの市民もエキストラや裏方として参加し、その体験がその後の主題歌「青い山脈」とともに市民の心のよりどころになっています。

三学のまちづくり

郷土の先人に「佐藤一斎」がいます。佐藤一斎は、美濃岩村藩出身の儒学者で、西郷隆盛にも大きな影響を与えた著書「言志四録」は、一斎が後半生に書いた語録です。小泉純一郎元総理が衆議院で「言志四録」について触れ、知名度が上がったことも記憶に新しいところです。数々の先人の知恵に学び、自己を磨き、生かし合うことが、自らの幸せにもつながり、地域の幸せにもつながる。一斎の説く人生や学びは、志、意欲ということであり、こうありたいという精神

です。「学ぶことは幸せなり」と、少年期から壮年期、老年期へと生涯学び続けることの大切さを説いた佐藤一斎の「三学の精神」を、生涯学習のまちづくりを進めるための理念とし、現在では「読書のすすめ」「求めて学ぶ」「学んで生かす」を3つの柱とした市民三学運動を進めています。

新たな観光資源を模索中

名古屋圏に近いという利点を生かし、本市がその奥座敷になればと期待を込め、今最も力を入れているのが観光施策です。その起爆剤の一つとして「新たな観光資源」と考えてきたのが、JR北海道社が開発を進めてきたDMV(デュアル・モード・ビーグル)で、これは一台の車両で線路と道路の両方を走行できる乗り物です。市内の恵

また、明知鉄道では、四季折々のイベント列車を運行しており、寒天列車、きのこ列車、じねんじょ列車、チャりんこ列車などに多くの観光客をお迎えしています。

地域協議会による活動

本市では、合併後いち早く地方自治法に規定される「地域自治区条例」を制定しました。これは、合併により周辺部が疲弊するのではないかと心配し、各地の住民が自ら考え、活発に行動できる仕組みを狙ったものです。その結果、自分たちのまちは自分たちでつくり出すとのスローガンの下、各地域に設置された地域協議会を中心にさまざまな取り組みが見られるようにな

りました。その活動の一端を紹介すると、防犯パトロールや、河川、道路の清掃活動、特産品の研究や販売、健康増進活動、高齢者をはじめとする交通弱者に対する移送サービスなど、各地域で実践的な取り組みが見られるようになり、平成21年度の実績では71振興策、155事業に延べ6万8000人を超える市民の参加のもとにまちづくりが進められたことは大きな喜びです。

次代を担う子どもたちに

全国で叫ばれる人口減少、少子・高齢社会は本市でも同様であり、特に合併時の人口(平成17年国勢調査)5万5700人が、平成27年には5万1100人になると予想されています。また、高齢化率も、合併時の26.4%から同様の推計では本年中に29%を超え、平成27年には33%になるだろうと予想されています。

こうした本市の大きな課題である人口減少問題に、正面から向き合い、平成23年からスタートする恵那市総合計画後期基本計画の中で、対策を講じていくこととしています。



DMV (デュアル・モード・ビーグル) の試験走行

住んでよかった、合併してよかったと思える「恵那市」を必ずや実現し、私たちが築いていこうとするこの「まち」をさらに磨き上げ、誇りの持てる「まち」として次代を担う恵那の子どもたちにかりとつなげていきたいと思っています。



「日本三大山城」の一つに数えられる岩村城跡



「言志四録」の著者である佐藤一斎翁の像

プロフィール

- ◆ 面積 504.19 km²
- ◆ 人口 5万5254人
- ◆ 世帯数 1万9225世帯

〔将来都市像〕人・地域・自然が調和した交流都市

〔まちの特徴〕800年の歴史を持つ女城主の城下町、市内を横断する中山道と大井宿、郷土の偉人として佐藤一斎、下田歌子、三好学らを輩出した歴史と文化のまち

〔特産品〕細寒天、恵那栗、栗きんとん、五平餅、東濃ひのき、シクラメン、蜂の子



恵那市長 可知義明



〔観光〕岩村城跡と城下町、中山道大井宿、県立自然公園恵那峡、日本大正村、福寿の里モンゴル村、坂折棚田、笠置山クライミングエリア、ペトリオグラフィックパーク

〔イベント〕みのりのみのり祭り、岩村城址新能、中山太鼓、全国へほの巣コンテスト、秋の月待ちお堂めぐり

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

「津久見市の個性・財産を生かしたまちづくり」を目指して

自然豊かなまち

津久見市は、大分県の中心都市大分市から南東に約30kmの豊後水道に面した海沿いの都市です。津久見湾の湾口部を囲うようにして半島部の典型的なリアス式海岸が延び、それをさらに鎮南山、姫岳、碁盤ヶ岳、彦岳といった山地が三方から馬てい型に囲んでいます。島しょ部は、南の四浦半島の延長に保戸島、北の長目半島の延長に地無垢島、沖無垢島の3島があります。美しいリアス式の海岸線が、山地斜面のみかん栽培の段々畑とコントラストを成し、素晴らしい景観と自然環境を保有しています。

産業面では、温暖な気候と山地斜面を活用して古くから栽培が行われてきた「つくみみかん」が品質、味ともに良く、高級品として珍重

されてきました。

また、保戸島を基地とした遠洋マグロ漁は全国的にも有名で、津久見発の食文化を担っています。

さらに、国内屈指の豊富な石灰石鉱脈と近接する港を活用した伝統あるライム産業(石灰石採掘とセメント産業)は、本市の中心産業であり、市内にはセメント町という地名もあるほどです。

行財政改革への取り組み

平成15年12月、私は「新しい風で津久見市を変える」と市民に訴え、市長選挙に立候補し、当選致しました。

当時の津久見市は県内11市の中でも最低の財政状況にありました。このままの財政運営を続けていけば、数年後には、財政再建団体(赤字団体)に陥るのは必至の状況でした。

まず、私は優先課題である行財政改革に着手しました。平成16年4月に大分県から助役を派遣していただき、県の手法を参考に、国・

県が示した最新の経済予測を基に改善目標を設定した「津久見市緊急行財政改革実行計画」を作成し、10月から実行に移しました。もちろん、すぐにも実行可能なものは4月から実行していきました。

私自身の待遇見直しとして、市長報酬の30%カット、市長交際費も大幅に抑えました。職員数は5年間で20%削減し、パート職員も減らすこととしました。職員給与は5%カットを敢行し、議員、区長にも自ら報酬をカットしていただきました。そのほか、各種手当も見直すなど経費の大幅な削減にも努め、計画は順調に滑り出しました。



保戸島の風景

また、この計画と並行して職員の意識改革にも取り組みました。職員一人一人が自主性を持って職務を遂行する職場でなければ、この計画の目標は到底達成できないし、行財政改革が市民サービスの低下につながっては意味がないと考えたからです。

その後、世界的な不況の影響などもあり、目標達成が危ぶまれた時期もありましたが、職員ならびに市民のご理解とご協力もあって、この計画は、平成21年3月末をもって目標以上の成果を挙げて終

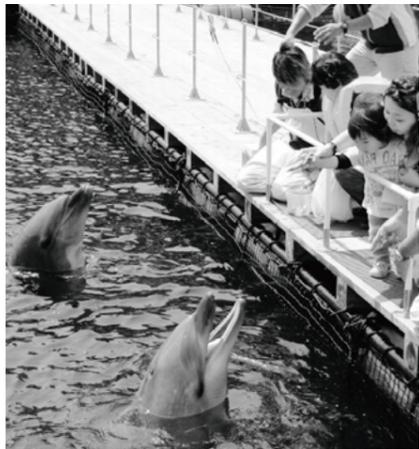
わることができました。

しかしながら、まだまだ持続可能な財政状況とはいえず、平成21年から25年までの5年間の「第二次津久見市緊急行財政改革実行計画」に移行しています。

活力あるまちづくり

私は市長就任以来、「元氣ある津久見市 活力あるまちづくり」をテーマとしてまちづくりに取り組んでまいりました。毎年市内各地域で懇談会を開催し、広く市民の意見を聞きながら本市が進むべき道筋を探ってきました。

しかし、就任1期目は財政の建て直しに追われたこともあり、思うように事業を進めることができませんでした。2期目を迎え、行財政改革が一定の成果を挙げたと



「つくみみかん」イベントの様子

ところで、私は観光振興をまちづくりの中核とすることを決意しました。とはいえ、それまで本市の観光産業は、近隣の都市と比べると決して力を入れていたとはいえないものでしたので、なかなか簡単にはいきません。そこで、本市のこれからの観光キーワードとして「イルカ」と「ひゅうが井」を挙げました。「イルカ」とは平成23年4月オープン予定の「つくみイルカ島」のことを表します。この施設は、イルカのパフォーマンスを楽しむだけでなく、トレーナーや餌やりの体験を通じて、実際にイルカに触れ合える参加体験型レジャー・複合学習施設としての特徴を兼ね備える予定です。「癒やしと学習の場」として観光振興の起爆剤となることを願っています。

また「ひゅうが井」とは保戸島に伝わる漁師料理で、マグロの赤身を独特の甘みのあるゴマダレに漬け、それをご飯にかけてものです。「ひゅうが井」自体は以前から市内の飲食店で食べることができましたが、平成21年に行われた「第1回 おおいたツーリズムサミット」のグルメグランプリで金賞に輝いたこ

津久見市長 吉本幸司

プロフィール

- ◆面積 79・54km²
- ◆人口 2万850人
- ◆世帯数 8859世帯

〔将来都市像〕みんなで描く津久見未来図―食の文化とライム産業が育む定住拠点―

〔まちの特徴〕豊かな海と緑に包まれた自然あふれるまち

〔特産品〕みかん、マグロ、津あじ、津さば、そうりんひらめ

〔観光〕四浦半島、大友宗麟墓地公園、尾崎小ミカン先祖木、つくみん公園、つくみイルカ島(平成23年4月オープン予定)

〔イベント〕つくみ港まつり&納涼花火大会(7月)、津久見扇子踊り大会(8月)、津久見市ふるさと振興祭(10月)

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。